こんな活動です

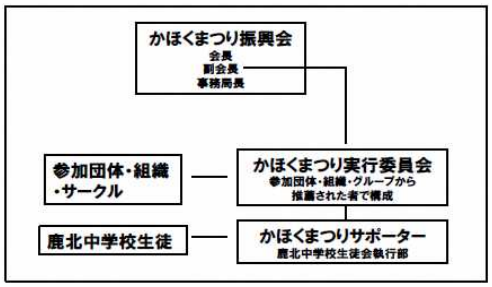
かほくまつり「手をつなごうプロジェクト」
～めざせ！500人のふれあいの輪～

熊本県山鹿市	●活動名	●関係する学校名
	かほくまつりサポーター会議	山鹿市立鹿北中学校

協働活動開始年度	平成　27　年度	関係学校数	1　校	のべ学級数	3　学級	のべ児童・生徒数	67　人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	―	―				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		7人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無		
	平成28年4月1日設置		50人				
参考URL	y-kahokujh@educet01.plala.or.jp						

●連絡先　山鹿市立鹿北中学校　☎ 0968-32-2019

●体制図



●活動の概要・経緯

鹿北町最大のイベントである「かほくまつり」に企画段階から参加したいとの中学生の要望に応え，かほくまつりサポーターとして中学生が活動に参加することとなる。サポーター会議を行う中で，中学生が考えた企画「手をつなごうプロジェクト」が採用された。会場に来られた方々500人で手をつなぎ世代を超えた一体感を演出するイベント。「手をつなぎみんなで伸ばそう鹿北町」というまつりのスローガンを，具体的な形として中学生が表現していった。この日のために，動画制作，ポスターづくり，首からかけるカードづくりなど，中学生が一つ一つ手作りで準備を進めてきた。当日は500人以上が集まり，まつり会場があるグラウンドいっぱいに大きな人の輪ができ，感動の場面を創り出すことができた。

中学生の取組は地域に元気と活気を与えるとともに，たくさんの感動の声が寄せられた。活動を通して地域と学校が共に地域活性化に取り組む方向性が見えてきた。次年度は，中学生が地域神輿の再興に取り組む予定である。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①中学生の要望を学校運営協議会で取り上げたことが、かほくまつり実行委員会への参加につながった。
②中学生が「かほくまつりサポーター」として，まつりのスタッフに位置づけられ，地域活性化を担うこととなった。
③地域学校協働活動推進員を通して，中学生が「社会の接点での学び」を充実させ，社会性の涵養を図ることができた。
④中学生によるPR動画作成を通して，たくさんの地域住民の方々との交流が生まれ，地域を巻き込んだ取組となった。
⑤PRポスターを作成し，保育園，小学校，町の各施設に掲示することで，中学生がまつりを主体的に宣伝する姿が見られた。
⑥町からの要請を地域学校協働活動推進員が中学校に連絡。生徒会が協議し抽選券配付やボランティア活動を行うこととなった。

【実施に当たっての工夫】

・鹿北市民センターが活動の拠点となり，中学校の取組をサポートするなど，コーディネーター役を担うことで活動を計画的かつスムーズに行うことができた。
・手をつなごうプロジェクトの企画とともに，マラソン大会への出場，まつり会場での赤い羽根共同募金，福もちまき，小中学生による合唱や吹奏楽部の演奏など，多岐にわたる活動への参加など，小中学生の活躍の場を意図的につくることで，地域と一体となった活動へと高めることができた。
・地域の方々を巻き込んだPR動画作成やポスター掲示などの事前活動の実施。また，当日は，500人が手をつなぐことで，人と人とのつながりをつくり，地域の人々の一体感を演出。

中学生がまつりの企画段階から参加することは，今までにないことである。そして，中学生が企画を考え、地域を巻き込んだイベントを成功させたことは，地域の方々にとって衝撃的なことであり，大きな喜びとなった。中学生にとっても，一つのイベントをやり遂げたことは大きな自信となり，地域の方々の笑顔が自己有用感を高めることとなった。学校という空間から地域へと目を向けるきっかけとなったのが，地域学校協働活動である。今後も，この活動を活性化させることで，地域と学校を結ぶ新たな取組の可能性を広げていくこととなる。まつりへの中学生の参画だけでなく，保育園児や小学生の参加をより活発化させ，地域行事を主体的に担う人材を育てていく活動としたい。

● その他

地域学校協働活動推進員のコーディネートにより，中学生が地域交流する場が数多く設定されている。各地区のサロン会，地域の祭，福祉施設などでは，中学校吹奏楽部の演奏会が実施された。

かほくまつり当日，手をつなぐ人の輪が会場いっぱいにできる

PR動画作成。消防署の方々と手をつなぐ場面を撮影。飲食店や自動車整備工場なども訪問